



プロフィール

Disma Dernocchi ヴィルマ・ヴェルノッキ (ソプラノ)

東京で行われた「第2回マダムバタフライコンクール」において、イタリア代表として最年少であったにもかかわらず、歌唱、演技において圧倒的な勝利をおさめ最優秀賞を与えられる。これを機に、ミラノスカラ座において正式デビュー、15年間スカラ座の歌手を務める傍ら、サン・カルロ、ヴェローナのアレーナ円形劇場、パリのオペラ座、チューリッヒのオペラ座などで連続的にさまざまな役を演じ、歌唱だけではなく美しく艶やかな舞台姿はたくさんの観客を魅了した。代表的なものとしては「蝶々夫人」のタイトルロール、「ラ・ボエーム」のミミ、「愛の妙薬」のアディーナ、「トゥーランドット」のリュウ、「カルメン」のミカエラなどがある。

アッバート、ガバツツーニ、パタネ、マリオ・デル・モナコ、コレッリ、カプチッリ、パヴァロッティ、ドミンゴ、カレーラス、コソット、デ・シモーネなど著名な指揮者、演奏家、演出家と共に演多数。日本では各地でコンサートツアーを行い、長崎では、彼女の演奏会場として特別にグラバー邸が提供された。また1973年には、ディ・ステファノとマリア・カラスのアジア公演に参加し歌声を披露した。テレビにおいては、ベルギー（BRT）、日本（NHK）、イタリア（RAI）などに出演。またイタリア国営テレビでの番組「Lirica Oggi（現在オペラ）」シリーズの発案、司会を担当した。北京、上海のオペラハウスでもセミナーを開催し、日本には、名古屋芸術大学客員教授として定期的に来日。ミラノスカラ座博物館の理事役員、ボローニャのマルティニ音楽院の声楽教授、校長を経て、現在は、世界各地でマスタークラスを行い、後進の指導に意欲を燃やしている。

ヴィルマ・ヴェルノッキ ベルカント唱法 声楽マスタークラス日程表